

廃アルミで水素発電へ

木更津 ホテル三日月



廃アルミを品用した水素発電の事業化に向けて発表するホテル三日月の小高社長(右端)とアルハイテックの水木社長(左)ら＝木更津市

客や住民から缶回収

ホテル三日月(木更津市)と環境エネルギーのベンチャー企業アルハイテック(富山県高岡市)は、廃アルミを品用した水素発電の事業化に向けて、戦略的パートナーシップを



約を結んだ。同ホテルが抱える「サステナブル(持続可能な)リゾート化計画」の一環として、水素火力発電システムの2026年稼働を目指す。

計画では、木更津市北浜町地域の住民やホテル宿泊客が出た廃アルミを品用し、水素を発生させる水素製造装置や化石燃料に代わる水素火力発電設備は「SDGs」持続可能な開発目標への行動変容のきっかけに、夏季であるようにする。

6月の締結式で、ホテル三日月の小高社長は「廃アルミから電力を作り出すことが目標が注目される。非排炭には再エネパークが地域の防災拠点にもなる。他にもグリーンなエネルギーの製造プラントを予定している」と方を返した。

26年稼働目指す 富山の企業と連携

アルハイテックの水木 樹朗社長は「パートナーを探していた。世の中のグリーン化に役立つ技術を開発したため、エネルギーの地産地消のモデルづくりは木更津で真剣に取り組む」と今後を展望した。同ホテルは、今年4月に資源循環型ホテルを目指すサステナブルリゾート計画を発表し、エビの殻上産物に替り、今後は温泉自噴メタンガスや食品の残りかすによるバイオガス発電、こみの再資源化などを順次展開する予定。